

IMAGE ARTS AND SCIENCES

日本映像学会報 No. 163, 2013

VIEW 展望

異文化間の往還からの学び—台湾での十年を振り返る／亀井克朗…2

INFORMATION 学会組織活動報告

研究企画委員会…3 映像表現研究会…3 支部・研究会だより 東部支部…3

映像心理学研究会…3 アニメーション研究会…3 映画文献資料研究会…4

西部支部…4 関西支部…4

FROM THE EDITORS

編集後記…4

「Image Arts and Sciences / 日本映像学会報第 163 号」2013 年 7 月 1 日発行
 発行人：豊原正智 編集担当／総務委員会：古賀太（委員長）・遠藤賢治・伏木啓・
 末永航・石坂健治・小出正志

日本映像学会事務局：176-8525 練馬区旭丘 2-42-1 日本大学芸術学部映画学科内
 phone：03-5995-8287 / fax：03-5995-8209 / e-mail：JASIAS@nihon-u.ac.jp

<http://jasias.jp/>



日本映像学会

異文化間の往還からの学び

——台湾での十年を振り返る

亀井 克朗

台湾南部の私立大学に日本語教師として赴任したのが2003年。本稿では、網羅する公平な記述ではなく、私というフィルターに映った状況を、私個人の身のふり方とともに振り返り、報告としたい。

台湾の映画事情については、早くに『台湾香港新映画宣言』（ペヨトル工房）所収の暉峻創三による報告があるが、実際に国境を超えなければわからないことは数知れない。映画研究に関して言えば、第一に、出版文化の発達ぶりに驚かされた。映画研究や映画理論書も多く翻訳されており、ノエル・バーチの *Une praxis du cinéma* の翻訳など、日本に先んじているものも少なくなかった。侯孝賢の研究書も、林文淇らの編んだ論文集（『戯戀人生』 麦田出版）があり、多様な切り口からの論考を集めていた。ポストコロニアルやジェンダーの視点からの批判や論争があることも、この書を通じて知った。先には、映画『悲情城市』を回顧し、監督をはじめスタッフと出演者へのロングインタビューを収めた『凝望・時代』（田園城市）が出版された。（これらの動向は、日本には十分に紹介されてこなかったが、一昨年に日本で開かれた国際シンポジウムとその成果を収めた『侯孝賢の詩学と時間のプリズム』（あるむ）によって大きく進展した。）こうした書物との主たる出会いの場となるのが誠品書店で、「座り読み」も許容するこの文化空間自体が鮮烈な印象だった。Claire Shen Hsiu-chen（沈秀貞）の侯孝賢と張藝謀の映画のスタイルを論じた *L'encre et l'écran* ともここで出会った。

2004年には、台湾国立中央大学で開かれた「台湾電影國際學術研討會」に出席。若干の発表を聞いただけだったが、上述の論文集に寄稿している論者をはじめ、台湾映画についての活発な議論が行われていた。（日本からは三澤真美恵氏の発表があったが、聞く機会を逸した。）

前掲暉峻も言及している国家電影資料館と同館発行の映画雑誌『電影欣賞』は、現在も続いており、今季で154号を迎える。こうした活動が印象づけるのは、文化活動に対する国や公的機関の助成の充実である。網羅も詳述もできないが、「台北金馬映画祭」をはじめ、「台北女性映画祭」、「台湾國際ドキュメンタリー映画祭」、「台湾國際民族誌映画祭」等のほか、台北、台南、高雄など、各都市独自のものを含め、多くの映画祭も開かれている。私が赴任した2003年は、台南に国立台湾文学館が開館した年でもあった。これらの背景としては、政治的には押さえられた台湾にとっての文化的発掘・発展の持つ意義の大きさも反映していると考えられる。

一方で、シネコンが幅を利かせ、ハリウッド映画ばかりがかけられる現実もある。しかし、コアな映画ファン、文化へのニーズは根強くあり、「アート系」やインディペンデントの映画の受容吸収は、上述の映画祭が主たる場となる。常設映画館としては、2002年開館の「台北之家」内の「光點台北」、翌2003年に酒工場跡地を開放して造られた「華山創意文化園區」内に2012年に開館した「光點華山電影館」がある。それに先立つ2011年には、台北から地下鉄で数駅の府中にドキュメンタリー映画を専門に上映する「府中15」が開館。

2012年から始まった「新北市電影節」の主会場の一つとなる。インディペンデントな活動や交流も近年盛んで、一例として、今年の4月に光點華山で行われたポップ・オスタータグとピエール・エベールによる映像と音楽の即興製作パフォーマンスを挙げることができる。

映画のDVDは、日本やヨーロッパの映画を含め、発売されているが、限られており、数と種類では日本に及ばない。侯孝賢の旧作はほぼ揃うが、新作『レッドバルーン』（映画は光點台北で公開）のDVDは台湾では発売されていない（日本では角川エンタテインメントより発売）。日本はもとよりヨーロッパやロシアのDVDがネット通販で買える時代に支障となるものではないが、些かの風通しの悪さを感じないではない。その一方で、李行の『王哥柳哥遊台灣』など、五、六十年代の白黒時代の「懐旧映画」がシリーズで発売され、好評を博している。

こうした流動的で活発な状況を追うこととともに、歴史を掘り起こすことが課題としてある。一方で、私にとって台湾への赴任は、「映画研究」から「日本語教育」の世界へと踏み入ることでもあった。ただし、この「二足目の草鞋」は、単なる生計を得るための手段なのではなく、二つは核心において交わり接している。

赴任に際し、日本語教育とナショナルなものとの結びつきから来る責めを負いながら、自らに課した役割は、私を台湾に導いた友人のようなラディカルな橋渡しになる存在を多く育てることであった。教育畑の出身でない私は、体当たりで試行錯誤するしかなかったが、その中で採った方向は、形や文法の正誤にとらわれず、自発性と内容を重視するということであった。（こうしたアプローチが日本語教育学の観点からも正当であると言えることは後で学び知った。）

日本文学史を教える際も、ハルオ・シラネらの『創造された古典』（新曜社）を胸に、制度的要請をいかに換骨奪胎し、文学作品の多面性や豊かさに触れさせるかに腐心した。学生時代、美術史を専攻する友人に教示された歴史のイデオロギー性の議論をアクチュアルな課題として受け止め直す契機ともなった。（「台湾」もまた、伝統を創出する過程のうちにあり、それが先述の台湾文学館設立の一つのコンテクストとなっている。）

教育法としてのディベートとも、こうした流れの中で出会った。最初は我流だったが、程なく、台湾全国ディベート大会とも関わり、正規の方式を学ぶに至る。研修会での学び、審判や他校の指導の教師との人的つながり、そしてそれらの意義の再認識等、多くを得た。ディベートは、批判的思考を教えることも含めての言語教育（『文化、ことば、教育』（明石書店）等）という考えと密接につながる。メディア・リテラシーの教育もそこに含めて考えることができる。自らの足場を問いなおすという、分野を問わず、教育と研究の根源にある問題とそれらは関わっている。

（かめい かつろう／台湾私立興國管理学院専任助教）

研究企画委員会

委員長 相内 啓司

報告と計画について

研究企画委員会では2012年度より本学会の重要な課題として、学会員によるさらなる研究・活動の活性化（若手研究者の育成事業の支援、新規研究会の発足、研究企画・活動の奨励など）をあげています。

そのため研究企画委員会では2013年度、学会員によって構成される研究会の、①研究活動の企画案・計画・成果の把握、②研究活動の活性化の支援、③情報の共有・公開性の整備を重点的な項目としてあげ、その実現に向けて検討を続けています。

各項目について以下のような具体案が検討されています。

①研究活動の企画案・計画・成果の把握については、継続的な活動を行っている研究会、新規発足予定の研究会を含め、各研究会は委員長および、主な構成会員が所属する支部に登録申請を行ない、支部の承認を経て後、支部に所属する。

その研究計画、成果については所定の期日に所属する支部を通じて研究企画委員会へ報告を行なう。

②研究活動の活性化の支援については、継続的な研究会活動をつづけている研究会、および新規発足予定の研究会の研究・活動計画の奨励・支援を目的に研究会活動助成金の公募を行なう計画を進めています。公募内容、公募期間、応募資格等の設定については7月開催の理事会にて最終的な審議を行い、承認され次第、迅速な施行を行なう予定です。公募要項等は学会報、学会の連絡mail等でお知らせする予定です。

③情報の共有・公開性の整備については、研究会による研究成果の発表、研究成果をまとめた報告書の作成、学会Webサイトでの公開などを検討しています。

(あいうち けいじ／京都精華大学芸術学部)

映像表現研究会

代表 伊奈 新祐

報告と計画について

6月初旬に東京造形大学で開催された第39回全国大会では、＜インターリンク・学生映像作品展：ISMIE2012＞の選抜作品集（5作品）の特別上映（6月2日）を行うことができました。大会実行委員の太田曜会員を中心に東京造形大のスタッフには上映運営にご協力いただき、ありがとうございました。また作品集のDVDの作成と配布には、例年のように研究会事務局の奥野邦利会員を中心に日大のスタッフの方々に尽力していただき、感謝致します。

ISMIE（インターリンク 学生映像作品展）2012 選抜作品 DVD
（合計 35 分）

東北芸術工科大学『まえだかるた』 前田結歌 9分50秒
京都精華大学芸術学部『みえないもの』 山崎廣人 5分40秒
北海道教育大学『パブリックと庭』 林紗綾香 4分
日本大学芸術学部『A DAY』 原 藍子 7分30秒
早稲田大学川口芸術学校『fragment』 鈴木紀之 6分30秒
*上記が参加12校の推薦者による選考結果（3票以上獲得した5作品）

早速、今年度の準備に入ることとなりますが、京都会場・東京会場ともに現時点では未定といった状態です。というのは、例年の京都会場となっている京都精華大学のサテライト・スペース「kara-S」の改修によって、従来のスタジオ・スペースが縮小され、

今までのような利用ができなくなったこと。また東京会場として昨年利用した「アップルストア銀座」についても利用条件・運営形態など見直しが必要となったからです。開催時期は、11月～12月の開催となる予定です（京都は例年、10月開催でした）。

具体的な会場・日程が決まり次第、ご案内したいと思います。京都会場では、アニメーション学会の学生作品展＜ICAF＞と共同運営する上映プランも検討しております。

また運営のための予算については、従来、幹事校として日大と京都精華大のやりくりにより依存している状態ですが、今後、学会理事会に対して予算補助申請を検討したいと思っています。参加各校の世話役の先生方には、参加校による持ち回りといった共同運営体制を作る方策を検討するなど、今まで以上にISMIE運営へのご協力をお願いする次第です。

今年度より新たな参加校として「玉川大学芸術学部」がISMIEに加わる予定です。巡回上映の希望もありましたら、研究会事務局（日大・奥野会員）までお知らせください。

(いな しんすけ／京都精華大学芸術学部)

支部・研究会だより

東部支部

奥野 邦利

東京造形大学での総会終了後に、これまで同様の形で東部支部総会を開催しました（議長：古賀太会員）。昨年度の東部支部報告と併せて、東部支部選出理事によって構成される幹事会を設置することが承認されました。今後の東部支部については、急ぎ幹事会を開き、運営方針を取り決める予定であります。次号会報では、具体的な内容をお示しします。

(おくのくにとし／東部支部担当常任理事、日本大学芸術学部)

映像心理学研究会

代表 横田 正夫

平成25年度映像心理学研究会計画

映像心理学研究会では、平成25年度に、数回の研究会を計画したい。テーマは「アニメーションの動きについての心理学的検討」と題し、アニメーターの作る動きの設計を、知覚・認知心理学的な文脈で解析し、アニメーターと心理学者の間で相互理解を深めることで動きの原理的な理解を深めるような研究会を開催する。こうした研究会は、アニメーションの現場での知識をより深めることにもつながり、動きの原理を心理学的に明らかにすることで、アニメーターのための基礎知識を提供することにつながる。

第1回目：平成25年8月3日

日本大学文理学部百周年記念館 会議室1（予定）
話題提供者はアニメーターと知覚心理学者の双方からを予定。

アニメーション研究会

代表 横田 正夫

平成25年度アニメーション研究会計画

アニメーション研究会では、平成25年度に、2回の研究会を計画している。日程は確定してないが、テーマは「アニメーションとジェンダー」、「アニメーションのプロデュース論」と題し、アニメーションをめぐるテーマの企画を考えている。詳細は確定次第、告知する予定。

(よこた まさお／日本大学文理学部)

映画文献資料研究会

代表 田島 良一

第32回映画文献資料研究会のお知らせ

日本映像学会映画文献資料研究会では下記の如く研究例会を開催いたします。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

記

日 時：2013年7月6日(土) 15時～17時
場 所：日本大学芸術学部江古田校舎東棟2階 E204 教室
西武池袋線江古田駅下車 徒歩5分。
<http://www.art.nihon-u.ac.jp/access/>

発表者：入江良郎会員
(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)

テーマ：「吉澤商店主・河浦謙一の足跡をたどる」
明治期最大の映画商社・吉澤商店はどこから現れ、どこへ消えたのか。現存する資料を紹介しながら、謎に包まれた商店の沿革や店主・河浦謙一の足跡を探ります。

問合せ先：日本映像学会映画文献資料研究会代表 田島良一
TEL 03 - 5995 - 8220・8944
〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1
日本大学芸術学部映画学科内

(たじまりょういち/日本大学芸術学部)

西部支部

中村 滋延

6月初旬に福岡市総合図書館映像ホールで催されるイメージフォーラムと連動する形で支部外から講師を招聘し、その講演を中心とした支部研究例会を、例年通り、開催する予定であった。しかし、今年度が日程調整の都合でそれが叶わず、その代わりに永年の支部の懸案であった以下の催しを予定している。

「福岡発映像アート、昨日・今日・明日」(仮題)
日程：2013年10月8日(火)-13日(日) (予定)
場所：福岡市中央区新天町の「ギャラリーおいし」、及び九州大学大橋サテライト・ルネット、他 (予定)
内容：西部支部会員の映像作品を中心とした上映会・映像作品展示を行う。それとともにアーティストトークを中心としたシンポジウムや講演会を行う。単なる作品提示を超えて、また、それらの内容を冊子にまとめ刊行する。

(なかむら しげのぶ/西部支部担当常任理事、九州大学大学院芸術工学研究院)

関西支部

大橋 勝

日本映像学会関西支部第69回研究会

日時：平成25年6月29日(土) 午後2時より
会場：京都工芸繊維大学 60周年記念館1階記念ホール
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町
tel.075-724-7633 (造形工学専攻 三木順子研究室 直通)
アクセス：京都市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅下車 徒歩10分

研究発表1：飯村隆彦の自己言及的作品について

発表者：望月由衣会員
(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程)

研究発表2：「口パク」と「アゴパク」——庵野秀明総監督『エヴァンゲリオン新劇場版：Q』(2012)にみる作画表現

発表者：松野敬文会員 (関西学院大学)

編集後記

総務委員会

■本年度の大会も実り豊かに終了しました。東京造形大学、大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。個人的には、西日本から横浜線で東京に入るのも新鮮で、磯崎新のキャンパスを体験できたのも収穫でした。今回「展望」を執筆してくれた亀井さんが台湾に行った時は遠くに行ったと思いましたが、今やそこからの視角が羨ましいほど重要になったと痛感します。皆様、暑い季節を元気で過ごしてください。(末永航)

日本映像学会関西支部第35回夏期映画ゼミナール2013年時代劇再考—全盛期から転換期へ—

主催：日本映像学会関西支部・京都府・京都府京都文化博物館
共催：(財)京都會館

プログラム

8月3日(土)

正午～午後1時30分	昼食
午後1時40分～	開会の辞
午後1時45分～午後2時54分	『忠臣蔵』(牧野省三) 1912年69分 横田商会
午後3時15分～午後4時27分	『江戸最後の日』(稲垣浩) 1941年72分 日活 (太秦)
午後5時30分～午後7時00分	夕食
午後7時00分～午後8時48分	『暗殺』(篠田正浩) 1964年108分 松竹 (大船)

8月4日(日)

午前8時00分～午前9時00分	朝食
午前9時00分～午前10時49分	『妖刀物語 花の吉原百人斬り』 (内田吐夢) 1960年109分 東映 (京都)
午前11時05分～午後0時16分	『斬る』(三隈研次) 1962年71分 大映 (京都)
正午～午後1時30分	昼食
午後1時30分～午後3時13分	『仇討』(今井正) 1964年103分 東映 (京都)
午後3時30分～午後5時38分	『上意討ち』(小林正樹) 1967年128分 東宝、三船プロ
午後5時30分～午後7時00分	夕食
午後7時00分～午後9時30分	シンポジウム

パネリスト：辻光明 (映像演出、現代風俗研究会会員、元大映京都撮影所助監督『怪盗と判官』『又四郎喧嘩旅』『雪の渡り鳥』『炎上』『銭形平次捕物控・美人蜘蛛』『壺千両』『忠直郷行状記』『大菩薩峠(龍神の巻)』『釈迦』『女と三悪人』『破戒』『斬る』『新撰組始末記』『顔役』など多数)、石塚洋史 (近畿大学非常勤講師)、ほか交渉中。
司会進行：未定

8月5日(月)

午前8時00分～午前9時00分	朝食
午前9時00分～午前10時16分	『東海道四谷怪談』(中川信夫) 1959年76分 新東宝
午前10時35分～午後0時08分	『この首一万石』(伊藤大輔) 1963年93分 東映 (京都)
	閉会の辞
正午～午後1時30分	昼食

会場：京都市右京区京北下中町鳥谷2番地

京都府立ゼミナールハウス
TEL 075(854)0216 <http://kyosemi.or.jp>

8月3日は無料送迎車があります。JR二条駅 西側ロータリー
午前11時00分発 ゼミナールハウス 正午頃着
JRバス(有料)ご利用の場合は「周山行」にお乗り下さい。そして周山到着後、ゼミナールハウスまでお電話下さい。お迎えに参ります。

参加費：二泊食事付 学会会員、一般 15,000円 学生 12,000円

懇親会(8月5日 昼より)：「山国笑福亭」(鮎料理)
TEL 075(853)0016 会費 15,000円(学生 8,000円)

申込締切：7月26日(金)

参加申込先：〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469
大阪芸術大学映像学科内 日本映像学会関西支部事務局(遠藤)宛
TEL 0721(93)3781 内線 3327 FAX 0721(93)6396
※所定の申込用紙があります。上記参加申込先へご連絡ください。

(おおはしまさる/関西支部担当常任理事、大阪芸術大学)